

平成27年度海外研修基礎コース in カリフォルニア職員研修報告

生産技術系
中村 達哉

1. 研修期間

平成27年9月12日（土）～平成27年9月22日（火）

2. 研修場所

米国カリフォルニア州サンノゼ近郊のシリコンバレー地区

3. 研修目的

本学北米教育研究センターが教育プログラムの一環として実施する海外研修基礎コース in カリフォルニアに学生とともに参加し、米国の大学および企業の訪問や、海外で活躍する起業家やコンサルタントによる講演会、研究者や技術者とのディスカッションを通して、国際的な広い視野を身に付ける。

また、本研修に参加する学生と行動を共にすることにより、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力を養うほか、帰国後の報告会を通し、企画・取材・文章力、プレゼンテーション能力の育成を図る。

4. 研修内容

*9月12日（土）

出国（鹿児島空港→羽田空港→成田空港→サンフランシスコ空港→サンノゼ）

インテルミュージアム（Intel Museum）見学

*9月13日（日）

オリエンテーション

企業体験学習報告会

橋本氏（Gallasus, Inc.）講演

懇談会および昼食会

スタンフォード大学（Stanford University）見学

*9月14日（月）

グラッドストーン研究所（Gladstone Institute）視察及び前田氏講演

グラッドストーン研究所の研究者との昼食会

サンノゼシティカレッジ（San Jose City College）ウエルカムレセプション

*9月15日（火）

サンノゼシティカレッジ（San Jose City College）語学研修

テックミュージアム（The Tech Museum）見学

オラクル（Oracle）視察

*9月16日（水）

サンノゼシティカレッジ語学研修

サンノゼ州立大学（San Jose State University）学生交流会及びキャンパスツアー

*9月17日(木)

サンノゼンティカレッジ語学研修

グーグル(Google)視察

バイオエネルギー共同研究所(Joint BioEnergy Institute)視察

*9月18日(金)

サンノゼンティカレッジ語学研修

キャノンUSA(Canon USA, Inc.)視察及び原口氏講演

ドコモイノベーションズ(Docomo Innovations, Inc.)視察及びディスカッション

*9月19日(土)

サンフランシスコ(ゴールデンゲートブリッジ、ユニオンスクエア等)観光

*9月20日(日)

自由学習

滝沢氏(NEDO)講演

解散式

*9月21日(月)~9月22日(火)

帰国(サンノゼ→サンフランシスコ空港→成田空港→羽田空港→鹿児島空港)

5. 研修報告

今回の研修における自身の目的は、米国において最新のイノベーションを体感し、現地の文化や人々との交流することにより、新しい視野や思考(ものの考え方や見方、発想など)を習得することである。なぜなら、これらは今後の技術職員として職務はもちろん、人間形成に不可欠であると考えたからである。本研修において、米国シリコンバレー地区の第一線で活躍されている講師による講演や企業及び研究所等の視察が、最新のイノベーションの体感に相当し、現地での語学研修や生活が、現地の文化や人々との交流に相当する。これらを体験することで、少しでも新しい視野や思考が得られることを期待し、本研修に臨んだ。

今回が初めての海外ということで、目に映るものすべてが新鮮だった。広大な土地や道路、巨大な建築物に驚き、風土等の違いもあり日本のそれらとは少し違って見えた。また、現地の人々の積極的なコミュニケーションは、自分自身のそれとは全く異なるものであり、改めてコミュニケーション能力の低さを痛感させてくれた。積極的な会話、豊富な感情表現やジェスチャー等は、今後の自身のコミュニケーションに必要であり、少しずつでも取り入れていかなければならないと思った。

最新のイノベーションを体感するにあたり、現地の企業や研究所の視察及び技術者や研究者の講演は、とても重要な部分を占めていた。視察においては、グラッドストーン研究所(Gladstone Institute)をはじめ、個人単位では視察が困難である場所を見学することができ、とても貴重な体験となった。また、技術者や研究者の講演やディスカッションは、技術職員の立場としてとても興味深いものであった。彼らの研究や技術に関するビジョン、アイデアや取り組み、日頃の行動や考え等は、それらを通して知ることができた。彼らは、研究や技術開発に対するオリジナルなアイデアや明確なビジョンを持っており、それらに対して常日頃から絶え間ない努力をしている。このことは、自身の考えの甘さを痛感させてくれると共に、今後の職務に対する新たなビジョンや目標、日頃の行動を考え直すきっかけをつくってくれた。

現地での語学研修や生活は、今後の人間形成に大きな影響を与えてくれると感じた。異人種や異文化

に触れることで、多面的なものの捉え方や見方を考えるきっかけとなった。これは、日本国内では体験することが困難であり、本研修のありがたみを知った。また、本研修と一緒に参加した学生からも大きな刺激を受けた。それは、研修序盤は物静かだった学生が、中盤から終盤になるにつれ積極的に行動している姿を見たからである。このような行動の変化からも、本研修が有効であることを見て取ることができた。

この10日間の研修によって、新しい視野や思考を少しではあるが取得できたと自分自身では感じている。今までの視野や思考が狭くて小さいものだと気づき、今後は多面的に物事を捉えて考えることが必要であると学んだ。本研修を通して学んだこと、感じたこと、体験したことのすべてを、今後の職務や生活に活かさなければならないと思った。

最後に、本研修を取り仕切ってくださった北米教育研究センター・センター長の竹内勝徳先生、現地にて本研修にご尽力いただいた北米教育センター・特任教授の住吉玄陽先生および国際事業系の池田麻美さん、同じ職員として共に参加した永田翔子さん、貴重な講演をしてくださった講師の皆様、研修期間中ともに行動した学生の皆さん、この研修に携わったすべての方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真 グラッドストーン研究所での講演



写真 サンノゼ州立大学での現地学生との交流



写真 テックミュージアムでの集合写真



写真 サンノゼ州立大学学生交流会の様子



写真 バイオエネルギー共同研究所の視察



写真 朝市の様子（自由学習）